



# AUE News

2013年10月1日

第 69 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



## 目次

- 行事予定(10月1-15日)
- トピックス
  - ・2013年度防災・減災セミナー
  - ・教員養成高度化センター教科教育学研究部門講演会
  - ・第8回東アジア教員養成国際シンポジウムに松田学長が出席
  - ・2013年度第1回リベラル・アーツ Edu セミナー
  - ・9月卒業式
- 第86回天文台一般公開
- お知らせ・報告・投稿
  - ・2015年第10回東アジア教員養成シンポジウムは本学が主催予定
  - ・ダンス部が全日本高校・大学ダンスフェスティバル特別賞の報告
  - ・大学見学に長野県飯田風越高校生徒が来学
  - ・国体出場者
  - ・催しもの案内

## 行事予定(10/1-15)

- 2日(水) 教務企画委員会 (13:30～ 第二会議室)  
学生支援委員会 (13:30～ 第五会議室)
- 8日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)  
総合防災防火訓練 (15:40～ 構内一帯)
- 9日(水) 教育創造開発機構委員会 (9:30～ 大学会館中会議室)  
代議員会 (13:30～ 第五会議室)  
教育研究評議会 (代議員会終了後、第五会議室)
- 15日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)

## トピックス

### 2013年度防災・減災セミナー(9/17)

本年度の防災・減災セミナーが9月17日(火)午後1時から、第一共通棟301室で開催されました。



同セミナーは、近い将来、発生が予想される南海トラフ巨大地震において、本学付近は最大震度7の揺れに襲われ、三河湾(西尾市)では最大予想津波7mと言われており、いかに被害を少なくするかを防災・減災の観点から、名古屋工業大学高度防災工学センター長の張鋒氏を講師に招き、本学学生、教職員はもとより地域住民の方にも広く周知し、70人の参加を得て開催したものです。

セミナーでは、松田正久学長の開催に至った経過および講師の紹介の後、同センターが行う防災に関する取り組みを、ハード面(土木耐震分野、地盤防災分野、建築耐震分野、河川等の水害)及びソフト面(災害危機管理)の両面から紹介され、出席者の注目を集めました。

出席者からは、センター内の二つの部門はお互いどのように機能しているか、スタッフの数は充実しているか、住宅地の標高と海岸からの距離と津波の到達可能性との関係はどうか、学生に対する安全対策はどのようにしているか、など多くの質問があり、また、地域住民からは、愛知教育大学はこの地域の避難所に指定されているが危険物などの対策は万全か、など活発な質問・要望などがありました。

最後に、本学の防災・防火委員会委員長の折出健二理事から、東海地区8大学による事務連携の中で地震を中心とした危機管理に対する連携を進めていること、防災教育を取り入れた授業を開講したこと、毎年実施している総合防災・防火訓練を通して、災害時における対応を行っていることなどの説明の後、張講師に対するお礼のあいさつでセミナーを終了しました。

(総務課 企画評価室長 神谷和征)



### 教員養成高度化センター教科教育学研究部門講演会(9/6)

9月18日(水)午前10時より恒例になった講演会を大学会館中集会室にて開催しました。添田久美子センター長のあいさつの後、今回は、本学名誉教授であり、愛知教育大学同窓会会長でもある竹原裕先生より、「デザイン思考による総合的学習を考える」という演題でご講演いただきました。部門の教員、学生・院生、事務職員など約30人が参加。竹原先生は、デザインの専門家であり、本学の校章はじめ大学概要や案内の表紙、名古屋市環境局の各種車、名古屋市内の案内板など数多くのデザインを手がけており、今回の講演会のポスターも無理を言って作っていただきました。



講演では、「デザイン」とは、「意匠」といった色や形を表す以前に、「計画する。設計する。企画する」といった意味があり、「アートではなく社会科学」であると述べられました。また、創造性を生み出す発想として、「非定型的発想」「多角的で柔軟な思考」「新しい価値の創造」などを例として話されました。これらは、総合的学習でも大切にされています。講演後は、生活科教育講座の久野弘幸先生、社会科教育講座の真島聖子先生、美術教育講座の富山邦夫先生、院生2人より、感想や質問が出され、竹原先生の講演内容の理解を一層深めることができました。

講演では、「デザイン」とは、「意匠」といった色や形を表す以前に、「計画する。設計する。企画する」といった意味があり、「アートではなく社会科学」であると述べられました。また、創造性を生み出す発想として、「非定型的発想」「多角的で柔軟な思考」「新しい価値の創造」などを例として話されました。これらは、総合的学習でも大切にされています。講演後は、生活科教育講座の久野弘幸先生、社会科教育講座の真島聖子先生、美術教育講座の富山邦夫先生、院生2人より、感想や質問が出され、竹原先生の講演内容の理解を一層深めることができました。



(生活科教育講座 教授 野田敦敬)

### 第8回東アジア教員養成国際シンポジウムに松田学長が出席(9/25-27)

日本、中国、韓国、台湾の各教員養成大学の学長、教員ら約100人が参加した「第8回東アジア教員養成国際シンポジウム」が9月25日(水)～27日(金)、中国・長春市で東北師範大学主催により開催され、本学の松田正久学長が25日、26日の会議等に出席しました。シンポジウムでは各国の研究者による教員養成の課題や展望が示され、活発な質疑応答が行われるなど、充実した意見交換、国境を越えて理解を深める交流が繰り返されました。



シンポジウムでは各国の研究者による教員養成の課題や展望が示され、活発な質疑応答が行われるなど、充実した意見交換、国境を越えて理解を深める交流が繰り返されました。

シンポジウムは25日午前8時半に開幕。東北師範大学教授の歓迎の辞に続いて、長尾彰夫大阪教育大学学長、辛恒均ソウル教育大学校学長がそれぞれ、シンポジウムの意義、友好関係の促進などに期待感を表明。続いて、三石初雄東京学芸大学

教授、徐万哲韓国公州大学校長らが基調講演で、日本の教師の専門職性や授業研究、韓国公教育の最近の状況などについて述べました。また、中国教育部教師教育担当幹部の許涛氏（教育学会常務理事）は中国の教師教育戦略の制度設計をテーマに、農村教育を含めた教師教育改革の各種プログラムを説明し、「中国は今、変化している。教師教育、研修の制度化などモデルケースの実施へ向けて動き出した」などと語りました。質疑では、「中国の研修計画は今のところ順調だが、カリキュラムなど問題があるのでは」「日本の高校での授業研究はどの程度進んでいるのか」等の意見が出され、松田学長も「中国、韓国において教師が魅力的な職業として高校生を教員養成大学に引きつける具体策があれば示してほしい」と質問し、各教授らが答えました。



刘益春東北師範大学学長は同大の沿革に触れた後、同大が進める独自の「UGS教師教育モデル」を解説。「このモデルは本学と地方政府、小中学生および教員が共同の発展を目指すもので、地方政府の支援で教師も研修で力を付けた。実験区は国も高く評価しており、成果を期待しつつ活動の幅を広げていきたい」と述べました。同日午後は、参加者が各班に分かれて実験校での授業を参観。松田学長らが視察したのは、長春市第151中学校（生徒数2427人）。日本の高校に当



たり、校長の歓迎のあいさつ、学校紹介に続いて、高校1年生63人が出席した実験室での化学の授業を見学。東北師範大学4年の女子学生、張蓉さんがパワーポイントを使いながら、ごみの分別の環境話題から入り、化学物質の分類法などを教える実習を行いました。実験室の壁には世界の科学者の写真や「実験是科学之父」の文字が掲げられ、歯切れのいい張さんの説明に高校生は真剣に聴き入り、質問には元気よく挙手して答えていました。

授業後、張さんが、生徒へのアンケートで授業への理解度を調べた結果などを示し、2人の指導教員が授業を「一人で授業をするのは今日が2回目だが、しっかりやっている」と評価。「日本にも以前は張さんのような学生がいたが、堂々とした学生の授業を久しぶりに見た」と日本の大学関係者がユーモアを交えて感想を述べる場面もあり、中身の濃い実習に参観者は師範大学実験モデルの成果を実感している様子でした。

25日夜には歓迎パーティーがあり、各大学関係者は食事をしながら歓談。主催大学関係者による二胡演奏、歌謡曲披露などがあり、和やかな交流が行われた。翌26日も各大学の研究者による発表が続けられた。松田学長はこの日、3月から東北師範大学に留学している本学学生の高岡咲歩さん（国際文化コース3年）、大澤佑子さん（初等・社会選修4年）と今年3月まで1年間本学に留学していた張中原さん（東北師範大学4年）と面談。大学構内を散策しながら、長春市での生活、勉強などについて聞き、学長は「冬は零下30度の日もあるそうですね。健康に留意して頑張ってください」と3人と握手して激励しました。3人とも笑顔で学長との再会を約束していました。



今回の学長の訪中には法人企画部の中原、眞野遠慧秘書広報課員が同行しました。

（法人企画部長 中原道文）

### 2013年度第1回リベラル・アーツEduセミナー(9/26)

9月26日（木）に、セミナー「クリッカー講習会（初心者対象）～能動的学修を促す方法を学ぶ」を開催しました。クリッカーとは、学生と教員の双方向のコミュニケーションを支援するためのツールで、①教員がスライド上で選択式の問題を出し、②学生がカード端末の番号ボタンを押すことで回答すると、③教員は瞬時に回答結果の集計を学生に示すことができます。クリッカ



一により、学生の反応を見ながら授業を進められるだけでなく、学生の能動的学修を促すこともできます。初心者対象の今回は、クリッカーを授業で用いる意義や基本操作方法の紹介を趣旨としました。

クリッカーを用いる意義としては、学生の理解度の確認、意識調査、気分転換ができることが挙げられますが、特に能動的学修を促すピア・インストラクション（学生同士の教え合い）を取り入れた使用法に焦点をあて紹介しました。基本操作方は、PPT と連携したソフトを提示

しながら、質問スライド作成の手順を具体的に説明し、参加者全員でレスポンスカードを手に投票し、集計結果の確認を行いました。

ディスカッションでは、まず学生の理解度確認のための質問と選択肢を検討したいとの感想や、教室の構造や学生数によっては、ピア・インストラクションが難しい場合があるのではないかと指摘もあり、活用の際の課題を共有する機会ともなりました。

※クリッカー機器を学内貸出しします。ご希望の方は、機構運営課総括担当係までご連絡ください。

（教育創造開発機構大学教育研究センター リベラル・アーツ教育部門研究員 久保田祐歌）



## 9 月卒業式(9/27)

2013 年度の 9 月卒業式が 9 月 27 日（金）午後 3 時から、講堂会議室で行われました。

この日、卒業・修了を迎えたのは 14 人。学部は入学年度で 2009 年度 7 人、08 年度 5 人、07 年度 1 人、大学院は 2011 年度 1 人。所属課程別で教員養成課程 10 人（うち初等教育教員養成課程 5 人、中等教育教員養成課程 3 人、特別支援学校教員養成課程 2 人）、現代学芸課程 3 人（国際文化コース、情報科学コース、自然科学コース分子・生命の各 1 人）です。このうち、卒業式には 11 人が出席し、松田正久学長から 1 人 1 人に学位記が手渡されました。



松田学長は「愛知教育大学での学びを土台に、広い視点から物事を考え、自らの意思で判断し、それぞれの分野で自らを鍛え、常に外の世界に目を向けて、『なぜ？ どうして？ と問う気持ち』を大切に、学びの中で力強く成長されますことを期待します」などと告辞し、卒業生・修了生を祝福。これを受けて卒業生代表の寺澤友悠さん（情報科学コース）が「愛知教育大学で学んだことに誇りを持ち、培った知識や経験を十分に発揮し、さまざまな分野で社会に貢献していきたい」と力強く謝辞を述べ、式は修了しました。



学長告示の全文は大学ホームページ「学長だより」に掲載しています。

[http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/message/letter\\_130927.html](http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/message/letter_130927.html)

## 第 86 回天文台一般公開(9/28)

本学天文台で「第 86 回一般公開」が 9 月 28 日（土）午後 6 時から自然科学棟で開催され、天文愛好家や家族連れなど 41 人が参加しました。



天文ミニ講座は「不思議な天体・彗星」をテーマに、澤武文特別教授（理科教育）が講演。「突然夜空に現れる彗星は、かつては不吉な天体とされてきましたが、その正体は、太陽の周りを回る、主に氷からできている小天体。これが太陽に近づいたとき、その表面が蒸発し、噴き出された物質が長い尾をたなびかせるのです」と説明。今年11月から来年1月に見られ、大彗星になるかもしれないと期待されるアイソン彗星の見え

方などを解説しました。

午後7時からの観望会では、40cm天体望遠鏡でアルクトゥスやアルビオンを観察。西播磨天文台の解説を真似た「カリフォルニアオレンジとハワイアンブルーの色の星のペアです」との解説に、参加者は興味深そうに望遠鏡をのぞき込んでい



ました。その後、球状星団 M13、リング星雲 M57、アンドロメダ銀河などを観測。小型望遠鏡でも、金星、ベガ、アルビオンなどを見て、秋の夜空を観測しました。



3D上映会は2回実施し、彗星の巣であるオールトの雲を確認。澤研究室の学生が解説を行い、参加者は映像での宇宙旅行を楽しみました。

次回の一般公開は、11月23日（土）午前10時～午後8時、「第7回科学・ものづくりフェスタ@愛教大」の開催に合わせて行われます。

詳しくは、天文台のホームページをご覧ください。

<http://www.phyas.aichi-edu.ac.jp/~tenmon/>

## お知らせ・報告・投稿

### 2015年第10回東アジア教員養成国際シンポジウムは本学が主催予定(お知らせ)

第8回東アジア教員養成国際シンポジウムが開催された、中国・長春市で9月25日（水）夜、参加大学の学長会議が開かれ、来年の第9回を韓国教員大学校主催で、続く再来年の第10回を日本の愛知教育大学主催で行うことが決まりました。

学長会議には中国、日本、韓国、台湾の教員養成大学学長（副学長の代理出席を含む）計13人が出席。東北師範大学の劉益春学長が司会を務め、次回開催国、主催大学、テーマなどについて協議。来年開催国は韓国で韓国教員大学校主催とすることを拍手で決定しました。テーマやオブザーバー参加国の追加の可否などについては主催大学で今後検討することとしました。

続いて、村松泰子東京学芸大学学長が発言を求め「来年の韓国開催に感謝します。第1回を東京で行い、第4回は大阪、京都、奈良の3教育大学で、第7回が東京学芸大学で開催。第10回は日本開催の可能性があるが、愛知教育大学にお願いしたいと思っている」と述べると、全員が拍手で本学主催を了承した。また、共同研究の成果は刊行予定で、日本語版は日本で、中国語版、韓国語版はそれぞれ中国、韓国で発行することにし、英語版については「世界で読まれるものになりたい」（村松学長）と今後の検討課題としました。

最後に劉学長が「皆さんが海外から来ていただいたことに感謝します。われわれ教育者と大学が素晴らしい未来を迎えられることを祈念します」と述べて、約1時間の会議を終えました。

（法人企画部長 中原道文）

### ダンス部が全日本高校・ダンスフェスティバルで特別賞(報告)

本学ダンス部は8月に出場した「第26回全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸」の創作コンクール部門で特別賞に選ばれました。その報告が同部から寄せられましたので掲載します。

\*

愛知教育大学ダンス部は創部4年目の新しい部活であり、全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸への出場は今回で2回目となります。4年前は部員3人からのスタートでしたが、今では13人になりました。13人中、大学からダンスを始めた人が8人。そのような状況の中で私たちが創り上げた作品「mother～映し出される姿～」は、全国8位（出場大学40校、うちコンクール部門は30校、参加発表部門24校）に相当する特別賞「主題にふさわしい演出効果」を受賞することができました。この受賞は本学ダンス部の更なる発展に向けての大きな一歩となりました。

作品創作中、部員同士での意見のぶつかり合い、技術力の問題や37度を上回る暑さの場所での過酷な練習などで、くじけそうになりかけたことが何回もありました。しかし、夜遅くまで作品のご指導をくださった顧問の成瀬麻美先生（保健体育）、いつも私たちを影でサポートしてくれた家族、その他私たちの活動を支えてくださる方々がいなかったら私たちはここまで来ることができませんでした。



これから私たちは11月24日の「第1回愛知教育大学ダンス部公演『origin—これから先へ……—』」（刈谷市総合文化センター、午後5時30分開演）に向けて活動します。この公演が4年生最後の引退公演になります。神戸受賞作品をはじめ、体育科学生の有志で踊る作品、新作も上演します。興味ある方はぜひ観に来てください。詳細はダンス部ホームページに載っています。

<http://aikyodanceclub.web.fc2.com/>

（ダンス部 神野由梨恵）

### 大学見学に長野県飯田風越高校生徒が来学(報告)

長野県飯田市の県立高校、飯田風越高校の1年生160人が9月26日（木）、大学見学に訪れました。

生徒たちは同日午後1時半にバス4台で到着し、第二共通棟421教室での説明会に参加。大学紹介DVDを見た後、同校出身の在學生による大学生活の紹介に耳を傾けました。3年生の学生は、大学での授業や受験勉強、クラブ活動やアルバイト、下宿生活についての体験をパワーポイントの資料を使って、「教員になりたいなら、同じ志望の仲間がいる愛教大がお薦めです」とアピール。高校生たちも先輩の話に聞き入って、最後はお礼の気持ちを拍手で表しました。



続く施設見学では4組に分かれて、第一共通棟や附属図書館、体育館、生協などを職員の案内で見て回りました。広く自然の豊かなキャンパスに「私たちの学校も緑が多いので、この環境は落ち着きます」と親しみを感じた様子でした。

### 国体出場者(報告)

第68回国民体育大会が東京都で9月28日（土）～10月8日（火）まで開催され、本学から学生が出場します。出場は次の皆さんです。健闘を祈ります。

\*

水泳部（9/11(水)～9/15(日)）

松藤優衣（4年 初等・保健体育） 100m平泳ぎ, 400mメドレーリレー

早川由香（1年 中等・保健体育） 400mメドレーリレー

三好 達（1年 中等・保健体育） 400mメドレーリレー

米倉 薫（1年 初等・保健体育） 400mメドレーリレー

陸上競技（10/4(金)～10/8(火)）

堂之下 藍 (4年 初等・保健体育) 走高跳び  
相馬由佳 (2年 初等・保健体育) 走高跳び  
池住瑞紀 (1年 中等・保健体育) 走高跳び  
沖 佳織 (2年 中等・保健体育) 4×100mリレー  
山岳 (10/4(金)~10/6(日))  
三浦真理子 (1年 特別支援教育専攻科)

## 催しもの案内

### ◆エコキャンパス事業「図書館『種』プロジェクト」講演会

10月9日(水) 13:00~14:00 入場無料、予約不要

愛知教育大学 附属図書館2階 アイ♥スペース

講師：中村美紀氏 (保健環境センター研究員)

演題：「放射熱を抑えて快適な空間へーグリーンカーテンとフラクタル日除けー」

対象：本学学生、教職員

内容：フラクタル日除け開発メンバーによる、放射熱を見る、感じるという簡単な実験を取り入れた講演会。

問い合わせ：図書館「種」プロジェクト TEL0566・26・2685

## 編集後記

後期授業が始まり、キャンパスに多くの学生が戻ってきました。暑さは長引いていますが、それでも青空には秋の雲がたなびき、イチョウの木は黄色く色づき始めています。附属図書館の「種プロジェクト」で育てているフウセンカズラは、その名のとおり風船のような実を付けて、何とか「種を返却」できそうです。間もなく、教員採用試験の結果も公表されますが、今年も多くの学生が実りの秋を迎えることを祈る今日この頃です。(K)



## 投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者：総務担当理事 折出 健二